

介護福祉学科

1 年

カリキュラム・マップ（介護福祉学科）

2025年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

- 1) 介護を必要とする方々に関わるために、介護福祉士として必要な**専門的知識と技能(DP1)**を身に付ける。
- 2) 多職種連携や地域連携、個別援助計画を**実践していくための思考力と実践力(DP2)**を身に付ける。
- 3) 自分が所属する様々なチームを**マネジメントできる知識と技術(DP3)**を身に付ける。
- 4) 人から求められる**人間性と態度(DP4)**を身に付ける。

区分		履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3	DP4	
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	1	30	1	○			◎	
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1	30	1	○			◎	
		チームマネジメント	1	30	1	○		◎	○	
	社会の理解	社会の理解 I	1	30	1	◎	○			
		社会の理解 II	2	30	1	◎	○			
	選択科目	社会貢献活動 I	1	90	2		◎	○	○	
社会貢献活動 II		2	90	2		○	◎	○		
介護	介護の基本	介護の基本 I	1	60	2	◎	○		○	
		介護の基本 II	2	30	1	◎	○		○	
		介護の基本 III	2	60	2	◎	○		○	
		介護の基本 IV	2	30	1	◎	○		○	
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	1	60	2	◎		○	○	
		生活支援技術	生活支援技術 I	1	30	1	◎			
			生活支援技術 II	1	120	3	◎	○	○	○
			生活支援技術 III	2	120	3	◎	○	○	○
	在宅生活支援		2	60	2	◎	◎	○	○	
	介護過程	介護過程 I	1	60	2	○	◎			
		介護過程 II - ①	1	30	1	○	◎	○	○	
		介護過程 II - ②	2	30	1	○	◎	○	○	
		介護過程 III	2	30	1	○	◎			
	介護総合演習	介護総合演習 I	1	30	1	◎			○	
介護総合演習 II - ①		1	30	1	◎	○		○		
介護総合演習 II - ②		2	30	1	◎	○		○		
介護総合演習 III		2	30	1	○	◎		○		
介護実習	介護実習 I - ①	1	80	2	◎		○	○		
	介護実習 I - ②	2	50	1	◎		○	○		
	介護実習 II - ①	1	120	3	◎		○	○		
	介護実習 II - ②	2	200	5	◎	○	○	○		
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解	1	60	2	◎	○			
	認知症の理解	認知症の理解 I	1	30	1	◎	○		○	
		認知症の理解 II	2	30	1	◎	○		○	
	障害の理解	障害の理解	1	60	2	◎	○		○	
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ I	1	60	2	◎	○		○	
		こころとからだのしくみ II	2	60	2	◎	○		○	
医療的ケア	医療的ケア I	1	30	1	◎	○				
	医療的ケア II	2	60	2	◎	○		○		
	医療的ケア III	2	30	1	◎	○		○		
その他	ITリテラシー I	1	30	1	◎	○	○			
	ITリテラシー II	2	30	1	◎	○	○			
	福祉用具とICT技術	1	60	2	◎	◎	○	○		
	国家試験対策	2	60	2	◎					
	介護特論	2	30	1				◎		
◎の科目数						31	8	2	3	
○の科目数						8	23	14	29	

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目（各科目1つのみ◎をつける）

○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目（各科目複数の○をつけてもよい）

授業科目	人間関係とコミュニケーション			担当者	鹿見 勇輔		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護サービスは、ヒューマンサービスであり、利用者やその家族、さらには同職種や多職種とも良好な関係を築くことが大切である。本授業では、人間の多面的な理解を基礎に、コミュニケーションの基礎、チームで働く能力の基礎を養うことを目的としている。また、相談援助技術職としてチームマネジメントを実践できるようになることを目指している。

到達目標

- ①コミュニケーションの特性や構造を理解することができる。
- ②福祉・介護現場におけるチームマネジメントを実践することができる。
- ③チームの力を最大化するためのリーダーシップ、フォロワーシップを発揮することができる。

授業計画

【前期】

1. 人間と人間関係
2. 自分と他者の認識のずれの検討、少数派が集団を変えるために必要なことの検討
3. 対人関係におけるコミュニケーション
4. 関係性によるあいさつの違いと含まれるメッセージの検討、非言語の種類とメッセージの検討
5. 対人援助関係におけるコミュニケーション
6. 傾聴の検討、バイステックの7原則の検討
7. 組織におけるコミュニケーション
8. 組織のコミュニケーションの検討、ブレインストーミングの実践
9. 介護実践におけるチームマネジメントの意義
10. 介護サービスとほかの仕事の違いの検討、ケアを展開するさまざまなチームの検討
11. ケアを展開するためのチームマネジメント、リーダーシップ・フォロワーシップの検討
12. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント
13. 介護福祉士としてのキャリアのイメージ、スーパービジョンの機能の理解
14. 組織の目標達成のためのチームマネジメント、組織の理念の検討、委員会の検討
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業前にシラバスにより各回の内容を把握しておくこと。
- ・復習は、教科書や記録したノートを整理すること。

評価の方法・基準

- ・①出席状況(30%)、②授業への参加態度(10%)、③レポート(10%)、④試験(50%)を合わせて評価する。

教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会(2022)『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』(中央法規)

備考

・講師の介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員等の経験を活かし、様々な事例を用いて実践的な講義や演習を行う。

授業科目	チームマネジメント			担当者	伊藤 大悟		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護福祉職のグループの中で中核的な役割やリーダーの下で専門職として役割を発揮するための視点を養い、行動できる力を身につける。

到達目標

- ・チームで働くために必要なリーダー・フォロワーの役割と留意点を学び、自分で考え行動する力を身につけることができる。
- ・自分のビジョン、思いや考えを明確にし、言葉にして伝えることができる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 自己分析 (クラスの一員として自分には何ができて、何が課題なのか)
3. 他者分析 (仲間の何を知っているのか)
4. チームワークトレーニング① (チームの一員としての役割)
5. " ② (成果とチームワークの関係)
6. プレゼンテーション① (伝える内容と話しの組み立て方)
7. " ② (伝え方の技法)
8. リーダーシップとは (リーダーに求められる知性と感性)
9. フォロアーズとは (フォロアーズに求められる支える力)
10. チームビジョンの構築方法と目標達成方法
11. 新しい福祉の組織構造①
12. " ②
13. 介護実践におけるリーダーシップとフォロアーズの必要性
14. チームマネジメントふりかえり①
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・授業で学んだことを日々の生活 (学校生活や行事等) で実践し、できたこと、できなかったことを日々振り返る。

評価の方法・基準

- ・授業態度 (20%)、レポート課題(40%)、期末考査(40%)

教科書

- ・必要資料は適宜配付する。

備考

職能団体等をリーダーとして引っ張る経験を持つ教員が、在学中、または現場に出て必要なチームマネジメントを解説する。

授 業 科 目	社会の理解 I			担 当 者	鹿見 勇輔		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

現代社会において、社会保障制度は私達の生活と密接不可分な関係にあり、日常生活の安定や安心の確保に繋がっている。本授業では、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識及び社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身に付けることを目的とする。

到達目標

- ・近年の社会問題や社会課題に興味・関心を持つことができる。
- ・日本の社会保障に関連する課題を把握し、自身の考えを言語化することができる。
- ・日本の社会保障制度の全体像を把握し、他者に説明することができる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 生活の基本機能、ライフスタイルの変化、家族の機能と役割
3. 社会・組織の機能と役割、地域社会、地域社会における生活支援
4. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策
5. 社会保障の基本的な考え方
6. 日本の社会保障制度の発達
7. 年金保険制度
8. 医療保険制度
9. 雇用保険制度と労働者災害補償保険制度、各種社会扶助
10. 介護保険制度①
11. " ②
12. 障害者総合支援制度①
13. " ②
14. 介護実践に関連する諸制度
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業前にシラバスにより各回の内容を把握しておくこと。
- ・テーマに関連した社会問題等に関心を持ち、自身の考えを持って臨むこと。
- ・復習は、教科書や記録したノートを整理すること。

評価の方法・基準

- ・①出席状況 (30%)、②授業態度 (10%)、③レポート (10%)、④期末試験 (50%) を合わせて評価する。

教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会 (2022) 『最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版』 (中央法規)

備考

- ・講師の介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員等の経験を活かし、様々な事例を用いて実践的な講義や演習を行う。

授 業 科 目	社会貢献活動Ⅰ			担 当 者	介護福祉学科教員		実務経験
	実習	期 間	通年		学科・学年	時 間 数 (単位数)	90 (2)
履 修 方 法	実習	期 間	通年	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

養成校の近隣地域や福祉施設での貢献活動を通して、対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。

到達目標

- ・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
- ・対象者の生活を支えるための実践力を身につける。
- ・対象者が住み慣れた地域での生活を継続するための制度や施策について学ぶことができる。

授業計画

【前期】	【後期】
1. 目的理解	16. 貢献活動⑪
2. 導入講座	17. " ⑫
3. グループでの活動検討	18. " ⑬
4. 貢献活動①	19. " ⑭
5. " ②	20. " ⑮
6. " ③	21. 中間振り返り
7. " ④	22. 貢献活動⑯
8. " ⑤	23. " ⑰
9. 中間振り返り	24. " ⑱
10. 貢献活動⑥	25. " ⑲
11. " ⑦	26. " ⑳
12. " ⑧	27. 活動報告会準備①
13. " ⑨	28. " ㉑
14. " ⑩	29. " ㉒
15. 振り返り	30. 活動報告会

事前・事後学習の内容

- ・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと。

評価の方法・基準

- ・活動への出席状況 (50%)、取り組み態度 (50%)

教科書

- ・なし

備考

授業科目	介護の基本 I			担当者	吉岡 俊昭 廣木 佑介		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続を支援するためのしくみを理解する。その人らしい生活を支援する専門職として、介護を必要とする人の生活を理解し、求められる倫理観や姿勢や介護をする上での基本を養う。また、介護福祉士の歴史や多職種連携についても学びを深める。

到達目標

- ・生活を支援する意味が理解できる。
- ・介護を必要とする人の理解ができる。
- ・介護福祉の歴史から基本理念である尊厳の保持や自立支援の考え方を理解できる。
- ・地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割と必要性について説明できる。
- ・多職種を理解し、連携の必要性を理解できる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 自分が目指す介護福祉士とは
3. 介護福祉士とは
4. 自己分析と他者分析
5. 私たちの生活の理解「生活とは何か」
6. 価値観の理解と共有
7. 介護福祉を必要とする人の理解
8. 「自分らしさ」と「その人らしさ」
9. 尊厳ある生活とは
10. 利用者本位と利用者主体の考え方
11. 地域共生社会とは
12. 地域連携の意義と目的
13. 地域連携の中での介護福祉士の役割
14. 老衰死と生死観
15. 中間まとめ

【後期】

16. 介護福祉を取り巻く状況
17. 介護福祉の歴史
18. 介護福祉の基本理念
19. 社会福祉士及び介護福祉士法
20. 介護福祉士の活動の場と役割
21. 利用者の生活を支えるしくみ
22. 生活を支えるフォーマルサービスとは
23. 生活を支えるインフォーマルサービスとは
24. 地域連携
25. 多職種連携・協働の必要性
26. 多職種連携・協働に求められる基本的な能力
27. 保健・医療・福祉職の役割と機能
28. 多職種連携・協働の実践
29. 介護現場からのメッセージ
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・教員が授業後に次回の授業説明を行い、その部分の教科書を読むなど授業の準備を行う。また、教員から出された課題を次の授業までに行っておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(70%)、レポート(15%)、授業への意欲的な参加(15%)で評価を行う。

教科書

- ・『介護の基本 I』(中央法規出版)、『介護の基本 II』(中央法規出版)

備考

介護施設で介護職・生活相談員に従事した経験を持つ教員が、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続を支援するためのしくみについて解説する。

ゲスト講師による授業等

授 業 科 目	生活支援技術 I			担 当 者	梅田 光希		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解し、福祉用具を選択・活用する基礎的な知識・技術を習得する。また住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な知識を習得する。

到達目標

- ・住まいの多様性や居住環境の整備の必要性を理解できる。
- ・福祉用具を活用する基礎的な知識・技術を習得できる。

授業計画

【前期】

1. 生活支援の基本的な考え方
2. 介護保険制度と障害者総合支援法について
3. 生活支援と ICF の視点
4. 住まいの役割と機能
5. 加齢と生活空間
6. 快適な室内環境
7. 安全に暮らすための生活環境
8. 高齢者・障がい者の住まい
9. 生活支援における福祉用具の重要性
10. 福祉用具の種類
11. 福祉用具の実際
12. 福祉用具の管理とリスクマネジメント
13. 介護ロボットの開発・活用にみるこれからの福祉用具の可能性
14. 生活支援と多職種連携(チームアプローチ)
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術 I』（中央法規出版） ・必要資料は適宜配布する

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、福祉用具の知識や活用方法、居住環境等について解説する。

授 業 科 目	介 護 過 程 I			担 当 者	寺藤 美喜子 梅田 光希		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程の仕組みや目的を理解し、基本的な展開方法を習得する。

尊厳の保持や自立支援の視点から個別のニーズに対応できる展開の方法を理解し、実践的な展開を行なうための基礎知識を身につける。

到達目標

- ・介護過程の意義と目的が理解できる。
- ・基本的な展開方法を理解できる。
- ・個々の利用者を知り、根拠に基づいた生活課題を導き出すことができる。

授業計画

【前期】

1. 生活を考える
2. 生活を支える介護の仕事とは拠のある介護とは
3. 根拠のなる介護とは
4. 介護過程の全体像・意義と目的
5. 介護過程の展開・アセスメントとは
6. 情報収集① (ICF の視点)
7. " ②
8. 情報の解釈・関連づけ・統合化とは①
9. " ②
10. " ③
11. 情報の解釈・関連づけ・統合化の演習①
12. " ②
13. 生活課題の明確化とは
14. まとめ①
15. " ②

【後期】

16. アセスメントについて (前期の復習)
17. 介護計画の立案とは
18. 介護計画における目標とは
19. 具体的な支援内容と支援方法について
20. 事例にもとづいた介護計画の立案①
21. " ②
22. 実施について
23. 実施における留意点と記録について
24. 評価における留意点と修正や記録について
25. 介護実習における介護計画の実際①
26. " ②
27. " ③
28. " ④
29. まとめ①
30. " ②

事前・事後学習の内容

- ・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし復習する。授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『介護過程』(中央法規出版) ・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、介護過程の仕組みや目的等、基本的な展開方法を解説する。

授 業 科 目	介護総合演習 I			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験 ○
履 修 方 法	演 習	期 間	前期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護実習とは何かを理解し、介護実習 I に必要な知識や技術を確認する。

到達目標

- ・介護実習 I に必要な知識や技術を身につけることができる。
- ・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

授業計画

【前期】

1. 介護実習の意義と目的 介護実習 I のねらいと実習モデル
2. 2年間の介護実習で想定される実習先①
3. " ②
4. 実習を始めるまでの手続き①
5. " ②
6. 自己紹介新聞作成
7. 実習施設の概要と地域特性
8. 実習前オリエンテーション
9. 生活支援技術を軸にした介護実習「実習日誌」①
10. " ②
11. " ③
12. 実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認
13. 実習後指導
14. 実習の振り返り
15. 実習報告会

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・必要書類は適宜配布する。

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習 I に必要な知識や技術を解説する。

授 業 科 目	介護総合演習Ⅱ-①			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。

演習課題に取り組み、介護過程を中心とした実習Ⅱ-①に必要な知識・技術、多職種連携の視点を学ぶ。

到達目標

- ・介護実習Ⅱに必要な知識や技術を身に付けることができる。
- ・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

授業計画

【後期】

1. 実習Ⅰ-①の振り返り
2. 実習Ⅱ-①のねらい
3. 実習を始めるまでの手続き①
4. " ②
5. " ③
6. 実習施設の概要と地域特性
7. 自己紹介新聞作成
8. 生活支援技術を軸にした介護実習「実習日誌」①
9. " ③
10. " ③
11. 実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認実習後指導
12. 実習後指導
13. 実習の振り返り①
14. " ②
15. 実習報告会

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物 (90%)、授業態度 (10%)

教科書

- ・必要書類は適宜配布する。

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ教員が、実習Ⅱに必要な知識や技術を解説する。

授業科目	介護実習 I-①			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	前期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	80 (2)

授業の目的・内容

10日(80時間)の介護現場での実習を行う。比較的元気な高齢者とのコミュニケーションを図り、関わることにより、高齢者の生活の様子や興味・関心を理解する。また、高齢者が生きてきた時代を理解することを通して、高齢者の生活を多面的に理解し利用者援助に役立てる。さらに、介護職員からの指導を受けながら介護業務に関わることで、介護福祉士としての基礎作りを行い、今後の学習に生かす。

到達目標

- ・言語的コミュニケーションが比較的可能な利用者との人間的なふれあいを通して、利用者の特性を理解する。
- ・利用者の日常生活を知り、介護の機能ならびに施設職員の一般的役割について理解する。
- ・初歩的な日常生活援助ができる。

授業計画

【前期】

10日間(80時間)の介護実習を行う。10日間を通して具体的に学習する内容は下記の通りである。

- (1) 実習施設の概要を理解する。
- (2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- (3) 利用者の日常生活を理解する。
- (4) 介護職の役割を理解する。
- (5) 基本的な日常生活援助を理解する。
- (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
- (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。

事前・事後学習の内容

(事前学習として)

- ・高齢者の身体的、心理的な特徴
- ・高齢者のコミュニケーションの特性
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・利用者が生きてきた時代背景 など充実した介護実習が行なえるようにする。

(事後学習として)

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2025年度介護実習要綱

備考

授業科目	介護実習Ⅱ-①			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	120 (3)

授業の目的・内容

15日間（120時間）の介護実習を行う。

- ・生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。
- ・利用者の個別性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。
- ・対象利用者を決め、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報を収集し整理し、ICFの考え方に基づいた介護過程の第1段階を身に付ける。

到達目標

- ・利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
- ・利用者のニーズを充足するための情報の収集ができる。
- ・医療・看護との連携の方法について学ぶ。
- ・利用者の状態について観察し、正しく記録できる。

授業計画

【後期】

15日間（120時間）の実習内容は15日間を通して具体的に学習する内容は下記の通りである。

- (1) 実習施設の概要を理解する。
- (2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- (3) 利用者の日常生活を理解する。
- (4) 介護職の役割を理解する。
- (5) 基本的な日常生活援助を理解する。
- (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
- (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。
- (8) 職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。
- (9) 健康管理援助（予防的介護）の仕方を学ぶ。
- (10) レクリエーションを企画し、実践する。
- (11) 指導者の監督・指導のもとに、1名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案するための情報収集を行う。

事前・事後学習の内容

(事前学習として)

- ・ICFの視点に基づいた介護過程の段階と情報収集の意味を理解する。
- ・生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

(事後学習として)

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2025年度介護実習要綱

備考

授 業 科 目	発達と老化の理解			担 当 者	香川 満子		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	通年	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

- ・人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を学習する。

到達目標

- ・介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得することができる。
- ・成長・発達の観点から老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得できる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション
2. 成長・発達とは、成長・発達の原則・法則
3. 発達段階と発達理論、発達課題
4. //
5. 人間の成長・発達 ①胎生期
6. // ②幼児期
7. // ③学童期
8. // ④青年期
9. // ⑤老年期
10. 老化とは
11. 老年期の発達課題
12. 老年期をめぐる課題
13. 老化にともなう身体的変化
14. //
15. まとめ

【後期】

16. 老化にともなう心理的变化
17. 老化にともなう社会的変化
18. 高齢者と健康
19. 高齢者に多い症状・疾患の特徴
20. 高齢者に多い疾患と症状①骨格・筋系
21. // ② //
22. // ③脳・神経系、感覚系
23. // ④循環器系
24. // ⑤呼吸器系
25. // ⑥消化器系、泌尿器系
26. // ⑦内分泌・代謝系
27. // ⑧口腔疾患、悪性腫瘍
28. // ⑨感染症・精神疾患
29. // ⑩その他
30. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・グループワークに積極的に参加する。
- ・テキストを熟読する。
- ・授業始めに前回の授業内容の設問を行うので復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験 (80%) 提出物 (10%) 出席状況・授業態度 (10%)

教科書

- ・「発達と老化の理解」(中央法規出版)

備考

授業科目	障害の理解			担当者	小田 卓		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解し、本人や家族も含めた介護上の留意点について学習する。また、介護現場で重要となる自立に向けた生活支援ができるよう、生活に視点を置いた基本的な支援方法について学ぶ。

また、家族支援のあり方や多職種との連携・協働について学習する。

到達目標

- ・障害者の法的定義について説明できる。
- ・障害のある人に対する介護の基本的視点について説明できる。
(自己決定、エンパワメント、権利擁護、ICF)
- ・障害の原因や代表的な障害の病態について説明できる。
- ・障害がもたらす日常生活への影響について説明できる。
- ・障害がもたらす心理面への影響について説明できる。
- ・障害の概念を知り、障害福祉について興味、関心を持つことができるようにする。

授業計画

【前期】

1. 障害のある人の暮らし 成年後見制度
2. わが国における障害者の法的定義
3. リハビリテーションの意味と理念、目的
4. 障害のある人の自己決定
5. エンパワメント
6. 権利擁護
7. 視覚障害のある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
8. 聴覚・言語障害、重複障害
9. 運動機能障害
10. 知的障害、発達障害
11. 精神障害
12. 高次脳機能障害
13. 重症心身障害
14. 心臓機能障害
15. まとめ

【後期】

16. 腎機能障害 ある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
17. 呼吸機能障害
18. 膀胱・直腸機能障害
19. 免疫機能障害
20. 肝臓機能障害
21. 難病
22. 社会資源の利用と開発①
23. // ②
24. 福祉機器
25. 居宅支援と自立
26. 家族支援の視点
27. 家族の状態の把握と介護負担の軽減
28. 多職種との連携
29. 地域におけるサポート体制
30. まとめ

※1～6 までは障害の歴史を学びながら障害の概念、制度等の理解を深める。

事前・事後学習の内容

- ・板書やスライドで表示した内容はノートにとる。
- ・教科書や科目に関連する書籍を読んでみる。

評価の方法・基準

- ・出席状況、授業態度 (20%) 提出物 (10%) 試験総合得点 (70%) で評価

教科書

- ・『障害の理解』(中央法規出版)

備考

授業科目	こころとからだのしくみⅠ			担当者	樋口 富枝		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、支援する側とされる側、双方にとって根拠のある介護実践を行うために必要な身体的・心理的・社会的側面を総合的に捉えるための基本的な知識を理解する。また、人間の心理、人体の構造と機能、生命が維持できている徴候と観察についての基本的な知識を身につけることを目指す。

到達目標

人体の機能と構造についての理解

- ・人間が活動する上で必要な心理について説明できる。
- ・生命徴候は何かを説明し、測定方法について説明、実施できる。
- ・生活支援技術への応用をイメージできる。
- ・介護過程を展開するための情報収集、アセスメントについて関連づけることができる。

授業計画

【前期】

1. こころとからだのしくみの必要性
2. 健康とは何か
3. 人間の欲求とは何か
4. 自己概念
5. 自己実現と尊厳
6. こころのしくみ
7. 学習・記憶・思考のしくみ
8. 感情のしくみ
9. 意欲・動機付けのしくみ
10. 適応と適応機制
11. ストレスとストレスマネジメント
12. 生命維持するしくみ
13. 自律神経とは
14. 前期の復習
15. まとめ

【後期】

16. 生命を維持する徴候
17. バイタルサインの観察法の演習
18. からだづくりの理解、人体の構造と機能
19. 細胞・遺伝
20. 脳・神経
21. 感覚器
22. 呼吸器
23. 循環器
24. 消化器
25. 泌尿器
26. 骨・関節・筋肉
27. 生殖器・内分泌
28. 血液・体液・リンパ液
29. 後期の復習
30. まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合があります。

事前・事後学習の内容

- ・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。

評価の方法・基準

- ・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（60点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
- ・授業態度（40%）、筆記試験（60%）

教科書・参考書

- ・『こころとからだのしくみ』（中央法規）
- ・『合格ドリル』（中央法規）

備考

病院で看護師に従事した経験を持つ教員が、こころとからだのしくみについて解説する。

授 業 科 目	医療的ケア I			担 当 者	長田 美紀		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	後期	学科・学年	介護1年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

医療的ケア実施基礎として、医療的ケアとはどういうものか、また、介護福祉士が喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について学ぶ。

到達目標

- ・福祉の専門職として医療的ケアに携わるために関連する制度の概念、社会背景等について説明できる。
- ・医療的ケアに関連する法制度や医療倫理について理解することができる。
- ・感染予防および健康状態の把握など医療的ケアを安全・適切に実施するうえでの内容を説明できる。

授業計画

【後期】

1. なぜ医療的ケアを学ぶのか
2. 医行為とは(法的な理解)
3. チーム医療
4. 医療の倫理と個人の尊厳の自立
5. 喀痰吸引等制度
6. 医療的ケアと喀痰吸引等の背景
7. その他の制度
8. 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
9. 救急蘇生法
10. 清潔保持と感染予防
11. 療養環境の清潔、消毒法
12. 健康状態の把握
13. 急変状態について
14. 復習
15. まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

- ・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。
- ・授業終了後、リアクションペーパー（課題）を記入し自己の習熟度を振り返り復習する。

評価の方法・基準

- ・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（60点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
- ・授業態度（20%）、筆記試験（80%）

※100%の出席率が必要な科目である

教科書

- ・『医療的ケア』（中央法規）

備考

授 業 科 目	福祉用具とICT技術			担 当 者	角南 拓磨		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 1 年	時 間 数 (単 位 数)	6 0 (2)

授業の目的・内容

専門職より指導を受け、福祉用具の考え方や最新の福祉用・ICT機器の種類や活用方法を学ぶ。

到達目標

- ・介護福祉士に必要な福祉用具とICT技術の知識を習得することで、個々の利用者に適した福祉用具の選定の視点を持つことができる。
- ・福祉・介護業界の生産性向上に向けた知識・技術を身につけることができる。

授業計画

【後期】

1. 福祉用具についての総論
2. 福祉用具フェア参加 ①
3. " ②
4. ベッドについて（組立て解体）
5. ベッド回りについて ①
6. " ②
7. 移動について ①
8. " ②
9. 住環境整備について
10. 福祉用具の選定・住環境について
11. 福祉用具のメンテナンスについて
12. 介護ロボット・ICT 総論
13. 介護ロボットと ICT 機器（見守り・科学的介護について）
14. 介護現場の ICT 機器導入について（介護記録ソフト）
15. 今後介護現場で必要にある福祉用具について

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料をファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・授業態度・出席状況（20%）、プレゼンテーション内容（80%）で評価

教科書

- ・『最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）
- ・『最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ』（中央法規出版）

備考

外部研修参加での読み替えあり

2 年

カリキュラム・マップ（介護福祉学科）

2024年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

- 1) 介護を必要とする方々に関わるために、介護福祉士として必要な**専門的知識と技能(DP1)**を身に付ける。
- 2) 多職種連携や地域連携、個別援助計画を実践していくための**思考力と実践力(DP2)**を身に付ける。
- 3) 自分が所属する様々なチームを**マネジメントできる知識と技術(DP3)**を身に付ける。
- 4) 人から求められる**人間性と態度(DP4)**を身に付ける。

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3	DP4	
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	1	30	1	○		◎	
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1	30	1	○		◎	
		チームマネジメント	1	30	1	○		◎	
	社会の理解	社会の理解 I	1	30	1	◎	○		
		社会の理解 II	2	30	1	◎	○		
	選択科目	社会貢献活動 I	1	90	2		◎	○	○
社会貢献活動 II		2	90	2		○	◎	○	
介護	介護の基本	介護の基本 I	1	60	2	◎	○		○
		介護の基本 II	2	30	1	◎	○		○
		介護の基本 III	2	60	2	◎	○		○
		介護の基本 IV	2	30	1	◎	○		○
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	1	60	2	◎		○	○
	生活支援技術	生活支援技術 I	1	30	1	◎			
		生活支援技術 II	1	120	3	◎	○	○	○
		生活支援技術 III	2	120	3	◎	○	○	○
		福祉用具と ICT 技術	1	60	2	◎	◎	○	○
		在宅生活支援	2	60	2	◎	◎	○	○
	介護過程	介護過程 I	1	60	2	○	◎		
		介護過程 II - ①	1	30	1	○	◎	○	○
		介護過程 II - ②	2	30	1	○	◎	○	○
		介護過程 III	2	30	1	○	◎		
	介護総合演習	介護総合演習 I	1	30	1	◎			○
		介護総合演習 II - ①	1	30	1	◎	○		○
介護総合演習 II - ②		2	30	1	◎	○		○	
介護総合演習 III		2	30	1	○	◎		○	
介護実習	介護実習 I - ①	1	80	2	◎		○	○	
	介護実習 I - ②	2	50	1	◎		○	○	
	介護実習 II - ①	1	120	3	◎		○	○	
	介護実習 II - ②	2	200	5	◎	○	○	○	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解	1	60	2	◎	○		
	認知症の理解	認知症の理解 I	1	30	1	◎	○		○
		認知症の理解 II	2	30	1	◎	○		○
	障害の理解	障害の理解	1	60	2	◎	○		○
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ I	1	60	2	◎	○		○	
	こころとからだのしくみ II	2	60	2	◎	○		○	
医療的ケア	医療的ケア I	1	30	1	◎	○			
	医療的ケア II	2	60	2	◎	○		○	
	医療的ケア III	2	30	1	◎	○		○	
その他	ITリテラシー I	1	60	2	◎	○	○		
	ITリテラシー II	2	30	1	◎	○	○		
	国家試験対策	2	60	2	◎				
	介護特論	2	30	1				◎	
					◎の科目数	31	8	2	3
					○の科目数	8	23	14	29

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目（各科目1つのみ◎をつける）

○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目（各科目複数の○をつけてもよい）

授 業 科 目	社会の理解Ⅱ			担 当 者	鹿見 勇輔		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

「社会の理解Ⅰ」を踏まえて、社会保障制度が私達の生活にとっていかに重要な役割を果たしているのかを検討する。本授業では、近年の社会状況の変化や社会保障制度の動向に興味・関心を持ち、社会問題や課題に対する解決策を提案できるようになることを目的とする。

到達目標

- ・社会保障制度を体系的に考えることができる。
- ・社会的弱者の立場に立って、制度・政策を考えることができる。

授業計画

【後期】

1. オリエンテーション
2. 個人・家族、地域社会・行政組織
3. 人間の尊厳と人権
4. 権利擁護
5. 虐待
6. 社会保障制度の概要
7. 医療保険制度
8. 年金保険制度
9. 雇用保険制度、労働者災害補償保険制度
10. 介護保険制度
11. 社会福祉法関連
12. 生活保護、社会手当
13. 高齢者福祉
14. 障害者福祉、障害者総合支援法
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業テーマに関連した社会問題等に関心を持ち、自分の考えを持って臨むこと。
- ・復習は、教科書や記録したノートを整理すること。

評価の方法・基準

- ・①出席状況 (40%)、②授業態度 (10%)、③期末試験 (50%) を合わせて評価する。

教科書

- ・介護福祉士養成講座編集委員 (2022) 『最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版』中央法規

備考

・講師の介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員等の福祉・介護現場での経験を活かし、様々な事例を用いて実践的な講義や演習を行う。

授 業 科 目	社会貢献活動Ⅱ			担 当 者	介護福祉学科教員		実務経験
	実習	期 間	通年		学科・学年	時 間 数 (単位数)	90 (2)

授業の目的・内容

養成校の近隣地域や福祉施設での貢献活動を通して、対象者の生活や地域の課題に対して介護福祉士としての役割を実践的に学ぶ。

到達目標

- ・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
- ・対象者の生活を支えるための実践力を身につける。
- ・対象者が住み慣れた地域での生活を継続するための制度や施策について学ぶことができる。

授業計画

【前期】	【後期】
1. 目的理解	16. 貢献活動⑪
2. 導入講座	17. " ⑫
3. グループでの活動検討	18. " ⑬
4. 貢献活動①	19. " ⑭
5. " ②	20. " ⑮
6. " ③	21. 中間振り返り
7. " ④	22. 貢献活動⑯
8. " ⑤	23. " ⑰
9. 中間振り返り	24. " ⑱
10. 貢献活動⑥	25. " ⑲
11. " ⑦	26. " ⑳
12. " ⑧	27. 活動報告会準備①
13. " ⑨	28. " ㉑
14. " ⑩	29. " ㉒
15. 振り返り	30. 活動報告会

事前・事後学習の内容

- ・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと

評価の方法・基準

- ・活動への出席状況 (50%)、取り組み態度 (50%)

教科書

- ・なし

備考

授 業 科 目	介護の基本Ⅱ			担 当 者	香川 寛		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

介護を必要とする人の理解を深め、自立支援に向けた支援方法を学び、介護予防やリハビリテーションの必要性を理解する。

到達目標

- ・介護福祉士の役割や機能を説明できる。
- ・介護を実践する上で、リハビリテーションの必要性や他専門職との協働の考え方を理解できる。
- ・ICFの視点を理解し、介護予防の必要性を理解できる。

授業計画

【前期】

1. オリエンテーション&プロとは
2. リハビリテーションとその実際
3. ノーマライゼーションとICF
4. 介護現場での二次障害
5. 自立支援とリハビリテーションケア
6. リハビリ的立位と移乗
7. リハビリ的座位と姿勢管理
8. リハビリ的起き上がり
9. 腰痛予防とスライディングボードでの移乗
10. 褥瘡ケアとハンドリング
11. 福祉用具でのベッド上移動 ①
12. // ②
13. 介護予防と福祉用具の活用
14. 人権擁護と虐待
15. リハビリテーションのための目標志向アプローチ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・レポート(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

授業科目	介護の基本Ⅲ			担当者	梅田 光希		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

介護を必要とする人への理解を深め、様々なサービスの概要を理解し、実際の生活支援を考える。災害時における介護福祉士の役割について理解を深め、介護福祉士として災害時に必要な知識と技術を養う。また、介護職の心身と共に健康管理の方法についても学習し、自己コントロールができるように学習する。

到達目標

- ・介護保険制度・障害者総合支援法におけるサービス等の種類、内容について説明できる。
- ・利用者を支援する様々な専門職種、地域の関係機関の機能と役割について説明できる。
- ・介護における安全確保とリスクマネジメントの必要性について述べることができ、具体的な事故と予防策について、実践例をもとに考えを述べるができる。
- ・災害時における介護福祉士の役割が理解できる。
- ・介護職の健康管理の必要性が理解できる。

授業計画

【前期】

1. フォーマルサービス・インフォーマルサービス
2. 高齢者のためのフォーマルサービス
3. 介護保険制度におけるサービスの種類（居宅）
4. " （施設、地域密着）
5. " （地域支援事業）
6. 振り返り
7. 障害者のためのフォーマルサービス
8. 地域福祉に関わる組織・団体
9. 住み慣れた地域でいつまでも暮らすために①
10. " ②
11. 災害時の介護福祉士の役割
12. 災害時の支援の実際①
13. " ②
14. 労働環境の整備
15. まとめ

【後期】

16. 介護における安全の確保
17. リスクマネジメントとは何か
18. リスクマネジメント（身体拘束）
19. 危険予知トレーニング
20. 介護職に必要な感染に対する知識①
21. " ②
22. 介護職の健康管理（ストレスマネジメント）①
23. " ②
24. 介護職の健康管理（アンガーマネジメント）①
25. " ②
26. 労働環境の整備①
27. " ②
28. 介護福祉士会とその活動①
29. " ②
30. 全体のまとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし予習、復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(80%)、授業態度(20%)

教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版）、『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）

備考

・介護施設で介護職として勤務した経験を持つ教員が、介護サービスや障害者サービスの特性や実際、介護福祉士に必要なリスクマネジメントや労働環境の整備について解説する。

- ・特別講師による授業等。

授 業 科 目	介 護 の 基 本 IV			担 当 者	吉 岡 俊 昭		実務経験
							○
履 修 方 法	講 義	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単 位 数)	3 0 (1)

授業の目的・内容

介護福祉士に求められる役割や機能を理解し、専門職として必要な知識や姿勢を習得し、介護福祉士として正しい判断ができるよう行動できるようになる。また職能団体の意味を理解し、自分の資格を自分で守り、高めることの必要性について理解する。

到達目標

- ・介護福祉士の倫理について理解し実践できる。
- ・職能団体を理解し、自分の資格を守り高めていくことの必要性が理解できる。
- ・介護福祉士の可能性を自分でイメージできるようになる。

授業計画

【後期】

1. 介護福祉士の倫理
2. 介護倫理と虐待
3. 虐待につながる不適切ケア①
4. " ②
5. " ③
6. 介護福祉士を支える団体①
7. " ②
8. 日本介護福祉士会倫理綱領
9. 尊厳を保持した倫理的介護の実践①
10. " ②
11. 介護福祉士の可能性①
12. " ②
13. " ③
14. 介護福祉士とは
15. 全体のまとめ

事前・事後学習の内容

- ・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

評価の方法・基準

- ・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

- ・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版）、『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版） ・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事、職能団体に役員を務める経験を持つ教員が、介護の倫理や職能団体について解説し、これから求められる介護福祉士の役割や機能について学びを深める

ゲスト講師による授業等

授 業 科 目	生活支援技術Ⅲ			担 当 者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	実 習	期 間	通 年	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	120 (3)

授業の目的・内容

尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。

到達目標

・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることも含めた適切な介護が提供できるために必要な知識や技術を習得し、介護実践に活用できる。

授業計画

【前期】	【後期】
1. 様々な障害者の生活と理解	16. 前期の振り返り
2. 障害や状況に応じた移動・移乗の方法	17. 事例検討A 適切なケア①
3. " ポジショニング	18. " ②
4. " 食事介護の方法	19. " ③
5. " 口腔ケア（歯科医師）	20. 事例検討B 適切なケア①
6. " 排泄介護の方法	21. " ②
7. " 入浴介護の方法①	22. " ③
8. " " ②	23. 事例検討C 適切なケア①
9. " 整容介護の方法	24. " ②
10. 介護福祉士に必要な薬の知識	25. " ③
11. 福祉用具・介護ロボット・ICT 機器見学	26. ケアコンテスト
12. 緊急時の対応と感染予防	27. 外部事例研修大会
13. 終末期における介護の意義と目的（エンゼルケア）	28. レクリエーション①
14. 終末期におけるグリーフケア（入棺体験）	29. " ②
15. 視覚障害・聴覚障害に応じた介護	30. まとめ

事前・事後学習の内容

・復習を行うこと。

評価の方法・基準

・試験(80%)、授業への参加度・発言の積極性(20%)

教科書

- ・『生活支援技術Ⅱ・Ⅲ』（中央法規出版）
- ・『本人の視点に基づく介護技術ハンドブック』
- ・必要資料は適宜配付する。

備考

介護施設で介護福祉職に従事した経験を持つ教員が、障害に応じ、利用者の潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術を解説する。

訪問入浴事業所、棺桶屋、福祉用具事業所、歯科医師による授業等
外部研修参加での読み替えあり

授 業 科 目	在宅生活支援			担 当 者	齋 木 亜 子		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

介護福祉士として、自立に向けた生活支援（家事支援）をするうえで必要な知識と技術を習得する。

到達目標

・衣と住に関する基本的な知識と技術を身につけ、利用者の自立に向けた生活を支援（家事支援）することができる。

授業計画

【前期】

1. 訪問介護とは
2. 訪問介護に必要な接遇マナー（接遇マナーと事故防止、クレーム対応）
3. 生活援助 ① 掃除
4. " ② 洗濯
5. " ③ 外出支援（通院、買い物）
6. " ④ 調理（献立）
7. " ⑤ 調理（買い物代行）
8. " ⑥ 調理
9. 訪問介護の実際①（高齢者支援）
10. " ③（高齢者支援）
11. " ③（障害者支援）
12. 利用者の状況好みに合わせた食事①
13. " ②
14. まとめ①（利用者の実際の生活をふまえた支援）
15. " ②

事前・事後学習の内容

- ・事前に授業範囲の教科書を読んでおく。
- ・日々の生活の中で、学んだ家事技術を実践し、身につける。

評価の方法・基準

- ・筆記試験（30%）、演習レポート・実技（50%）、出席（20%）

教科書

- ・『最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）

備考

訪問介護事業所で在宅生活支援を行っている介護職員による授業等

授 業 科 目	介護過程Ⅱ-②			担 当 者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履 修 方 法	演 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

他の科目で習得した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。

到達目標

- ・実習Ⅱ-①で情報収集した利用者のアセスメントと計画の立案を行うことができる。
- ・実習Ⅱ-②で実施するカンファレンスを模擬的に行い、根拠をもとに立案した個別援助計画の説明ができる。
- ・評価・修正の目的と方法を理解できる。

授業計画

【前期】

1. 介護過程の実践的展開
2. 「アセスメント」の実際 「情報の解釈・関連づけ・統合化」 事例1 ①
3. " " " " " " ②
4. " " 「課題の明確化」 事例1
5. " " 「個別援助計画」の立案 事例1
6. カンファレンス①
7. " " ②
8. 「アセスメント」の実際 「情報の解釈・関連づけ・統合化」 事例2 ①
9. " " " " " " ②
10. " " 「課題の明確化」 事例2
11. " " 「個別援助計画」の立案 事例2
12. カンファレンス①
13. " " ②
14. 個別援助計画の修正
15. " " 評価

事前・事後学習の内容

- ・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

- ・提出物(80%)、カンファレンス取り組み状況(20%)

教科書

- ・『介護過程』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配付する。

備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、アセスメント方法から個別援助計画の立案・実施・評価について解説する。

授業科目	介護過程Ⅲ			担当者	寺藤 美喜子		実務経験
							○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

チームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を理解し、チームアプローチによる利用者支援の実際について理解を深める。また、実習で行った介護過程から、「生活することの意味」「人生の尊さ」「介護福祉士としての仕事の魅力」などを学ぶ。

到達目標

- ・実習で取り組んだ介護過程をまとめ発表することができる。
- ・介護過程とケアマネジメントの関係性を理解できる。
- ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割が理解できる。

授業計画

【後期】

1. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開の振り返り
2. 事例研究の意義 発表の概要
3. 介護実習における介護計画の実際 実習取り組んだ介護過程のまとめ① (はじめに)
4. " ② (事例紹介)
5. " ③ (取り組み、結果)
6. " ④ (考察)
7. " ⑤ (終わりに)
8. 介護福祉士の役割 介護実習における介護計画の実際 (発表用 PowerPoint 作成) ①
9. 介護実習における介護計画の実際 (発表用 PowerPoint 作成) ②
10. " ③
11. " ④
12. 介護実習における介護計画の実際 取り組み発表①
13. " ②
14. " ③
15. " ④

事前・事後学習の内容

- ・授業で行った内容を振り返る。

評価の方法・基準

- ・出欠の状況(10%)、授業態度(20%)、事例研究内容(70%)

教科書

- ・『介護過程』(中央法規出版)

備考

介護施設で介護職と介護支援職員に従事した経験を持つ教員が、チームアプローチについて解説する。

授業科目	介護総合演習Ⅲ			担当者	梅田 光希		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

前半は文献研究の進め方を学び、介護福祉士として求められる事例研究に必要な知識と技術を身に付ける。後半は介護実習で実施した介護過程の展開を、事例研究としてまとめ発表する。

到達目標

- ・介護実習で得た事例をもとに、事例研究としてまとめることができる。
- ・事例研究としてまとめた成果物を発表用のスライドにすることができる。
- ・発表用のスライドと原稿をもとに、時間内で発表することができる。
- ・事例研究発表の方法や手順を理解し実践することができる。

授業計画

【後期】

1. 事例研究概要報告書の作成
2. 事例研究概要 Word 作成①
3. " ② (担当教員に指導を受け、研究概要を完成する)
4. " ③
5. " ④
6. 事例研究 Power Point 作成 ① (発表原稿の作成を含める)
7. " ② (")
8. " ③ (アニメーション、発表原稿の作成を含める)
9. " ④ (")
10. 事例研究発表リハーサル (個別リハーサル、Power Point と発表原稿の修正)
11. 事例研究発表①
12. " ②
13. " ③
14. " ④
15. " ⑤

事前・事後学習の内容

- ・事例研究の原稿・発表用スライド・発表原稿の作成
- ・発表のリハーサル

評価の方法・基準

- ・事例研究概要と Power Point の出来栄え (50%)、事例研究発表の内容 (50%) で総合評価を行う

※授業以外の時間に担当教員の指導を受けながら Power Point と発表原稿の修正を各自行い、リハーサルと研究発表に間に合わせる。また、パソコン教室の使用状況、事例研究発表の状況によって、授業時間を同日に複数時間とることがあるので欠席には十分気を付けること。

※Word、PowerPoint の指導を各担当教員から受け、提出期限までに仕上げる。

教科書

- ・プリント配布

備考

授 業 科 目	介護実習 I-②			担 当 者	吉岡 俊昭		実務経験
履 修 方 法	実 習	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	50 (1)

授業の目的・内容

- ①7日間（50時間）の介護実習を行う。
- ②在宅で生活している利用者の居住環境と日常生活を知り、訪問介護や小規模多機能型居宅介護の一般的・特殊的作用について理解する。
- ③これまで培った介護知識と技術を活用し、在宅で生活している利用者の日常生活援助ができる。
- ④介護福祉の目的のひとつが、地域で生活している利用者の生活援助の推進を図ることであることを理解する。
- ⑤地域で生活している人たちの自助グループや、それらを支援する地域組織や団体について理解し、共に生きる福祉のまちづくりについて理解する。

到達目標

- ・実習事業所の概要を理解する。
- ・在宅で生活する利用者がどのような暮らしを送り、その暮らしに介護職がどのように関わっているのかを学ぶ。
- ・在宅で生活する利用者に関わる各専門職の役割と連携方法を学ぶ。

授業計画

【前期】

7日間（50時間）の実習内容は下記の通りである。

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習施設の概要を理解する。 (2) 職員の構成と職務内容を理解する。 (3) 在宅で生活している利用者の日常生活を理解する。 (4) 介護職の役割を理解する。 (5) 基本的な在宅の日常生活援助を理解する。 (6) 実習指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。 (7) 地域生活の積み重ねを通して、人々の生活歴と成育歴が形成され、価値と習慣を有する固有の存在として主体的に生きる人間が育まれていることを理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> (8) 介護事業所は、地域にある社会資源のひとつであり、地域社会との関わりと様々な社会資源との連携と協働によって事業を行っていることを理解する。 (9) 地域にある介護事業所などの社会資源を理解し、それらが地域住民の生活を支えていることを理解する。 |
|---|---|

事前・事後学習の内容

（事前学習として）

- ・訪問介護、小規模多機能型居宅介護のサービス内容について理解する。
- ・配属された事業所の理解を図る。

（事後学習として）

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習の課題を明らかにする。
- ・在宅実習での学びから、施設で生活している人たちにどのような支援をする視点が必要かを考える。

評価の方法・基準

- ①実習前の提出物（10%）、②実習日誌（10%）、③実習に対する姿勢（10%）、④実習での学び（20%）、実習指導者による実習評価（50%）を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2025年度 介護実習要綱

備考

授業科目	介護実習Ⅱ-②			担当者	吉岡 俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	後期	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	200 (5)

授業の目的・内容

- ①25日間(200時間)の介護実習を行う。
- ②生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。
- ③利用者の個性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。
- ④対象利用者を決め、ICFの考え方にに基づき、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報の収集、アセスメント、個別援助計画の作成、実施、評価を行う。

到達目標

- ・利用者の状態について観察し、正しく記録できる。
- ・利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
- ・利用者のニーズを充足するための情報収集、アセスメント、個別援助計画の作成ができる。
- ・個別援助計画に沿った介護支援を実施し、評価することができる。
- ・処遇全般についてチームの一員として理解するとともに、医療・看護との連携の方法について学ぶ。

授業計画

【前期】

25日間(200時間)の実習内容は下記の通りである。

- | | |
|---------------------------------------|---|
| (1) 実習施設の概要を理解する。 | (10) レクリエーションを企画し、実践する。 |
| (2) 職員の構成と職務内容を理解する。 | (11) 指導者の監督・指導のもとに、1名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案・実施・評価する。 |
| (3) 利用者の日常生活を理解する。 | (12) カンファレンスに参加し、多職種協働の重要性を理解する。 |
| (4) 介護職の役割を理解する。 | (13) 夜間勤務を1回経験し、指導者の指示により夜間の業務内容および利用者の状態を理解する。 |
| (5) 基本的な日常生活援助を理解する。 | (14) 指導者の監督・指導のもとに、終末期の一部を見学する。 |
| (6) 利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。 | |
| (7) 指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。 | |
| (8) 職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。 | |
| (9) 健康管理援助(予防的介護)の仕方を学ぶ。 | |

(機会があれば)

事前・事後学習の内容

(事前学習として)

- ・ICFの視点に基づいた介護過程の段階である情報収集、アセスメント、個別援助計画の意味を理解する。
- ・生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
- ・配属された実習施設の理解を図る。
- ・レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

(事後学習として)

- ・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習の課題を明らかにする。

評価の方法・基準

- ①実習前の提出物(10%)、②実習日誌(10%)、③実習に対する姿勢(10%)、④実習での学び(10%)、⑤アセスメント・個別援助計画・評価シート(10%)、実習指導者による実習評価(50%)を本校で総合的に評価する。

教科書

- ・2025年度 介護実習要綱

備考

授 業 科 目	認知症の理解Ⅱ			担 当 者	長田 美紀		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	前期	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

認知症のある人の特性を理解し、パーソン・センタード・ケアに基づく理論と実践方法を学ぶ。本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する。

到達目標

- ・認知症の人の認知機能の変化が、どのように生活に影響しているかを理解し、生活を続けるために環境をどのように提供するかを考えることができる。
- ・認知症のステージに応じた介護について、介護職としてのかかわり方を説明できる。
- ・認知症の人が「その人らしく」暮らすために、地域のかや家族の力を活かす方法を考えることができる。

授業計画

【前期】

1. パーソン・センタード・ケア
2. アセスメントツール センター方式
3. アセスメントツール ひもときシート
4. 認知症の人とのコミュニケーション
5. 認知症の人へのケア①
6. " ②
7. ユマニチュード
8. バリテーション、回想法
9. 終末期の人の医療と介護
10. 環境づくり
11. 家族への支援①
12. " ②
13. 制度、サービス
14. 多職種連携
15. まとめ

事前・事後学習の内容

- ・テキストの次回授業範囲を読んでおくこと。
- ・授業終了時に提示した課題を実施し、次回授業時に提出すること。
- ・社会資源のリサーチをしておくこと。

評価の方法・基準

- ・筆記試験

教科書

- ・『認知症の理解』（中央法規出版）

備考

授業科目	こころとからだのしくみⅡ			担当者	樋口 富枝		実務経験
							○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

根拠のある介護実践・日常生活支援を行うために必要な人体の機能と構造、心理について基礎的な知識を身につけることを目指す。得られた知識を介護実践に必要な情報収集やアセスメントを強化し、支援を必要とする人の状態にあった生活支援技術を提供できるよう役立てる。

到達目標

日常生活支援における心身の状態を理解できる

- ・移動、身じたく、食事、清潔保持、排泄、睡眠におけるこころとからだのしくみについて理解できる。
- ・生活支援技術の理解を深め、根拠ある日常生活支援技術が実践できる。
- ・介護過程を展開するための情報収集、アセスメントについて関連づけることができる。

授業計画

【前期】

1. 移動のしくみ
2. 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
3. 機能低下・障害が移動に及ぼす影響
4. 移動に関する変化の気づきと対応
5. 身じたくのしくみ①
6. 身じたくのしくみ②
7. 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
8. 身じたくに関する変化の気づきと対応
9. 食事のしくみ
10. 心身の機能低下が食事に及ぼす影響
11. 食事に関連する変化の気づきと対応①
12. 食事に関連する変化の気づきと対応②
13. 休息・睡眠のしくみ
14. 睡眠障害の種類、睡眠薬の種類
15. まとめ

【後期】

16. 入浴・清潔保持のしくみ
17. 機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①
18. 機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②
19. 入浴・清潔保持に関連する変化の気づきと対応
20. 排泄のしくみ
21. 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①
22. 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②
23. 排便に関連する変化の気づきと対応
24. 人生の最終段階に関する「死」のとりえ方
25. 「死」に対するこころの理解
26. 終末期から危篤状態、死後のからだの理解
27. 介護福祉職に必要な薬の知識
28. 復習①国家試験対策
29. 復習②国家試験対策
30. まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

- ・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。

評価の方法・基準

- ・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（60点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
- ・授業態度（40%）、筆記試験（60%）

教科書・参考書

- ・『こころとからだのしくみ』（中央法規）
- ・『合格ドリル』（中央法規）

備考

病院で看護師に従事した経験を持つ教員が、こころとからだのしくみについて解説する。

授 業 科 目	医療的ケアⅡ			担 当 者	長田 美紀		実務経験
履 修 方 法	講義	期 間	通年	学科・学年	介護2年	時 間 数 (単位数)	60 (2)

授業の目的・内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

到達目標

- ・根拠に基づく喀痰吸引・経管栄養の方法・留意点について説明できる。
- ・医療的ケア実施の際に予測される急変・事故、対応について理解し、安全確認ができる。
- ・基本的な救急蘇生法を説明、実施できる。

授業計画

【前期】

1. 医療的ケアの復習、オリエンテーション
2. 呼吸のしくみとはたらき
3. 喀痰吸引の基礎的知識①
4. " ②
5. 喀痰吸引の実施手順①
6. " ②
7. 消化器系のしくみとはたらき
8. 経管栄養の基礎的知識①
9. " ②
10. 経管栄養の実施手順①
11. " ②
12. 栄養剤に関する知識、実施上の留意点
13. 現場での医療的ケアの実際
14. まとめ①
15. " ②

【後期】

16. 救急蘇生法
17. 心肺蘇生法①
18. " ②
19. 医療的ケア急変・事故発生時の対応と連携①
20. " ②
21. 清潔操作実施手順
22. 清潔操作演習
23. 家族支援①高齢者
24. " ②こども
25. 医療的ケアの説明と同意
26. 医療職との連携、記録の書き方
27. 医療的ケア復習①国家試験対策
28. " ②国家試験対策
29. " ③国家試験対策
30. まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合があります。

事前・事後学習の内容

- ・『COCOAR』の無料アプリを各自インストールし、授業前後に教科書と合わせて確認し、各自理解を深める。
- ・授業終了後、リアクションペーパー（課題）を記入し自己の習熟度を振り返り復習する。

評価の方法・基準

- ・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（80点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
- ・授業態度（20%）、筆記試験（80%）

※100%の出席率が必要な科目。前期の筆記試験に合格後、「医療的ケアⅢ(演習)」に進むことができる。

教科書

- ・『医療的ケア』（中央法規）

備考

授 業 科 目	医療的ケアⅢ			担 当 者	長田 美紀		実務経験
履 修 方 法	演 習	期 間	後 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

「医療的ケア(講義)」が終了し筆記試験に合格後、実際にシミュレーターを用いて、喀痰吸引、経管栄養の演習を行う。実施手順に沿って安全・安楽に医療的ケアが実施できるようになることが目的である。

到達目標

- ・実施手順・方法を学び、シミュレーターを用いて「喀痰吸引」「経管栄養」の一連の動作を一人で実施でき、演習評価に合格できる。

授業計画

【後期】

1. 口腔内吸引の手順の確認
2. 口腔内吸引の演習①
3. " ②
4. 鼻腔内吸引の手順の確認
5. 鼻腔内吸引の演習①
6. " ②
7. 気管内吸引の手順の確認
8. 気管内吸引の演習①
9. " ②
10. 経鼻経管栄養の手順の確認
11. 経鼻経管栄養の演習①
12. " ②
13. 胃ろうまたは腸ろう経管栄養の手順の確認
14. 胃ろうまたは腸ろう経管栄養の演習①
15. " ②

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

- ・教科書の『COCOAR』無料アプリにて、実施手順や留意点を再復習しておく。
- ・技術面を磨くため練習が必須。実技試験にむけて自主的に練習を行うこと。

評価の方法・基準

- ・実技試験 (100%)
- ※100%の出席率が必要な科目である。

教科書

- ・『医療的ケア』(中央法規)

備考

授業科目	国家試験対策			担当者	各担当教員		実務経験
	演習	期間	後期		学科・学年	介護2年	時間数 (単位数)

授業の目的・内容

介護福祉士国家試験に向けての対策講座である。介護福祉士国家試験に必要な知識の習得を行う。
また、外部業者による模擬試験、学力評価試験や学内模試など模擬試験を受け、①試験の雰囲気になれる、②国家試験の傾向を掴む、③学生自身の弱点の克服を目指す、ことを目的とする。

到達目標

- ・介護福祉士国家試験に出題される基本的な知識の習得ができる。

授業計画

【後期】

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 学内模擬試験Ⅰ—① | 16. 国家試験対策授業⑥ |
| 2. " —② | 17. " ⑦ |
| 3. " —①②の解説 | 18. 障害の理解 |
| 4. 国家試験対策授業① | 19. 外部模擬試験（午前）（外部会場） |
| 5. " ② | 20. " （午後）（"） |
| 6. 学内模擬試験Ⅱ—① | 21. 外部模擬試験の解説 |
| 7. " —② | 22. 医療的ケア・総合問題 |
| 8. " —①②の解説 | 23. 学内模擬試験Ⅲ—① |
| 9. 国家試験対策授業③ | 24. " —② |
| 10. 人間の尊厳と自立・コミュニケーション | 25. " —①②の解説 |
| 11. 国家試験対策授業④ | 26. 学力評価試験（午前） |
| 12. 外部模擬試験（午前） | 27. " （午後） |
| 13. " （午後） | 28. 学力評価試験の解説 |
| 14. 外部模擬試験の解説 | 29. 学内模擬試験Ⅳ |
| 15. 国家試験対策授業⑤ | 30. " Ⅴ |

事前・事後学習の内容

- ・行った模擬試験問題など解説も含めて、授業終了後プリントや資料（授業で使用したもの）をファイリングし、自己学習に活用する。
- ・国家試験問題集を用いて、各自計画的に勉強を進めること。

評価の方法・基準

- ・学内模擬試験の成績（85%）と出席状況・授業への取り組み（15%）で総合的に評価する。

※外部業者による模擬試験や学内の模擬試験は休まず受験すること。

※模擬試験を休んだ場合は、補講として放課後残りその週のうちに模擬試験を受験すること。

教科書

- ・『2026年版 介護福祉士完全マスター問題集』（ナツメ社）
- ・『介護福祉士国家試験わかる受かる合格テキスト2026』（中央法規出版）
- ・必要資料は適宜配布する。

備考

授 業 科 目	介 護 特 論			担 当 者	吉岡 俊昭 寺藤 美喜子 梅田 光希		実務経験
履 修 方 法	講 義	期 間	前 期	学 科 ・ 学 年	介 護 2 年	時 間 数 (単位数)	30 (1)

授業の目的・内容

各福祉施設に求められる人材の性質を理解し、就職試験対策や必要書類の準備をしていく。社会に出てから必要なマナーを学ぶ。

到達目標

- ・適切な自己表現、自己主張をすることができる。
- ・希望する就職先から内定をもらうことができる。

授業計画

【前期】

1. 求人票の見方、就職活動の流れ
2. 小論文・作文練習①履歴書の書き方
3. " ②
4. " ③
5. " ④
6. " ⑤
7. 就職ガイダンス参加 ①
8. " ②
9. 絵手紙①
10. " ②
11. " ③
12. " ④
13. 特別活動①
14. " ②
15. " ③

事前・事後学習の内容

- ・授業内容の目的を理解しておく
- ・授業内容を振り返り自分ができることを考える

評価の方法・基準

- ・出席状況(40%)、授業態度(50%)、提出物(10%)によって総合的に評価

教科書

- ・プリント配布

備考

ゲスト講師の授業等

外部での福祉イベント等への参加